

ぼだい樹 復刻版 8月

『自灯明』この意味なあに！

私達日本人は世界から見ると、仏教徒といわれています。しかし現実には皆さん自身が、胸を張って「私は、仏教を信じています。」といえる方は、ほんの少しです。でも心の中をじっくりと覗いてみますと、先祖崇拜の心がしっかりと根を降ろしています。

お盆に仏壇の前で一家揃って、慌ただしく過ぎ去った一年を振り返って、亡くなったおじいちゃんおばあちゃんに奉告する姿は日本人の普通の生活です。この時どなたも、灯明をあげます。ローソクの光は、闇夜を照らして迷っている魂を導き救ってくれます。その上ローソクは、芯に火をつけ周りの蠟を溶かしながら、周囲を明るく照らしてくれます。この姿『自分の身は焼き尽くしても他者の為に生きる』私たちの生き方の指針となります。

光明真言

おんあぼきや べいろしゃのまかばだら

まにはんどまじんばら

はらはりたやうん(7)

宝寿院歳時記 平成二十五年 夏

異常天候！朝晩の水遣り・でも草は頑張っています。草取りは坊さんの大切な仕事、毎日草と格闘中です。今年是一本も枯死せず枝垂桜も沙羅も菩提樹もさつきも椿も皆元気に、猛暑を乗り切りました。白い深山萩がニメートル以上の草丈になり、四季咲きの萩がピンクの花を覗かせています。秋には 名月を楽しみに お出かけ下さい。築山の菊も丈夫に育っています。十一月には赤・白・黄色など百花爛漫咲き競います。

迎え火・送り火

お盆の十三日の夕方、家家の門の前では、迎え火をたいて精霊さまを、おむかえいただきます。暗闇の中で我が家の明かりを見つけた時の気持ちは 本心に嬉しいものです。精霊さまが 懐かしい我が家にお帰りになる日の 最初の心尽くしです。

お盆はすべてが、ご先祖さまに対するやさしさにあふれています。しばしの帰省を満喫されて、安心された精霊さまは 送り火と共にやみ路をお戻りになります。

物の溢れた豊かな日本の中で、お盆の間、餓鬼にも食事を上げ、ご先祖さまにも三度三度の手作りの精進料理を差し上げます。

この宗教行事が、子から孫へと受け継がれ

ていきます様にと、心から念じています。

この伝統行事が仏壇を中心にしてどの家庭でも 行われますことを願いつつ、

心やさしき迎え火・送り火を閉じます。

京都では 十六日 夕 五山の送り火が

(大・妙・法・鳥居・舟形)が炊かれました。

宝寿院ニュース

お施餓鬼が終わりますと、いよいよ秋の

彼岸には

永代経が厳修されます。

九月二十二日 午後二時 ご先祖様の成仏を願う遺族の志を受けて 感謝の集いとして お勤めいたします。お待ち申し上げます。

当院の庭のお釈迦様 最後の姿「涅槃寂静」の中に納骨の申し出をされた方があります。後継者が無いので、ここへ骨を納めてほしいという申し出を受けて、納骨をしました。

感謝 合掌

